



生涯、魅力ある福祉に

社会福祉法人つるかわ学園

理事長 廣本 肇

学園の桜が見事、満開。春爛漫と風景を演出してくれました。児童施設を解体し撤去し、そして新しい成人施設を二十年前に新築しました。

工事がスタンバイしてからです。たつの事を思いました。ひとつは東京がやっている通勤寮をなんとか誘致できないか、そしてもうひとつは入所し利用しているひとたちが長生きして、すでに高齢者福祉の対象になっていく気配です。成人施設は年齢の上限を示していませんが、高齢者としての対応は設備を含め違うものがあって、それが近づいているという事です。

二十年経過すれば当然、経年劣化、補修工事等にかかわるものいくつかが出てきます。心の中は、工事中からそっちに傾いていました。そして建物と一緒に私も年をとるのです。としたら次世代を背負う若者を集め、仕事の出来るいわゆるプロフェッショナルな職人を養成しなく

社会福祉法人つるかわ学園
つるかわ学園を支える会
☎195-0051
東京都町田市真光寺町
186番地
TEL (042) 735-2220
FAX (042) 736-6374
HP:tsurukawa-gakuen.com

ではと思いつめていました。一緒に苦心惨闘努力を注ぎこんだ若者も気が付いてみれば還暦を待つ年齢層がたぐざんいるのです。数年前から植村施設長とは、繰り返し検討が続けられていました。

役職ある者の定年を線引きし、そして継ぎ世代の人が、それを担う。そして、あるていど実務から一歩退いたスーパーバイスするところに位置してビジョンへの課題に取り組む姿勢を具体的に表現していくのはどうだろうか。施設長は自ら三月末日で退職し、翌四月一日付けスーパーバイザーとして再雇用しました。一年ごとの契約で勿論、給与も下がりますが、理事長としては恐縮の極みですが、理事長として、植村施設長の持つ才能をここで手放すわけにはいかない判断しているのです。

おおかた、それぞれの事業所では言葉に出して言っていないですが、次世代を背負う継ぎ手に苦慮していると思います。上の者がひとつでもふたつでもムーブすれば階段をひとつあがり体験させていくことも出来るのです。

就職してやや時が過ぎますと、仕事があるのは当たり前だと思っ

まうと感謝の気持ちさえ薄れてきます。そうしますと、この仕事は面倒だ、やりたくない、このくらいいいだろう、そんな気持ちで仕事をやるものが出てきます。そうすると自分の仕事、ふりを振り返ることもなく給料が安い、もっと手当てを寄越せと固く信じこむ人も出てきます。

あるいは、あの人が嫌い、この部署は嫌だが出る場合もあります。昔、講演を頼まれ主催者側からの注文もあり、「感謝をもつ仕事」と題され喋ったことがあります。

なんと、現場のスタッフなのに、総じて拍手があり忘れていた感謝の気持ち、これは、とりもなおさず利用者へのサービスにつながる共感として受け止められたのです。体制への批判の数々ありましたが、今、あなたはどこで働いているのですかと問いかけ、応対したところうなづいてくれました。

ずーっと昔ですが、給料日、必ず私のところに挨拶にくる職員がいました。「お給料、いただきました。ありがとうございます」と、です。

そのひとは長いこと働いてくださいました。私は、いつも、こころの中で、長い、短いにかかわらず、つるかわ学園で働いてくれ、お辞めになるとき、ほんとうにこころのそこから「ありがとうございます」と言っておりません。それが、どんな立場であろうとも感謝の言葉を伝え届けています。いつか、どこかで「つるかわ学園で働いて良かった」という思い出になっていければなおのことなのです。

四月から六月と言いますと三カ月です。働き始めて三カ月。慣れてきます。その頃、悔恨のうろたえに迷わされているひともいます。

石の上にも三年三月。くらべてみますと、心の中でこれからだと思えるようになったら本物に一步踏み上った事になります。この仕事、慣れていないことの恐ろしさ。慣れていないからの恐ろしさを抱えています。職員は皆、一生懸命に働いています。私たちは、施設福祉という命題のもと働いています。それぞれが職人芸を持ち、プロフェッショナルであり、チーム福祉の一員として、スクラムが組めるようにちからを尽くしています。職員は時として失敗もする。そこから学ぶべきもの多々あるのです。そこから立ち上がる勇氣、私はフォローします。人と人との間柄を大切にしていけば、それぞれの年月で成長と変化があつて然りでしょう。そして、いつの日か「私が障害者になっても、今働いている施設には入所しない」なんて言う言い方はしないで、自らが、そこで暮らしたい処にしていきたいですね。

「生涯、魅力ある福祉に」このテーマを持ち続けながら、価値観がこれだけ多様化している現在、福祉労働が魅力ある職種になっていかなければ人材確保の困難は続いていくでしょう。個々の職員の柔軟な発想と姿勢と取組をみんなで磨き、いいものは共有し実践していくのが望まれるのです。

六月の爽やかな風、たくさん深呼吸してください。

つるかわ学園施設長 就任のご挨拶

つるかわ学園施設長 丸山文弘

このたび、前施設長の退任を受けて、つるかわ学園の施設長に就任いたしました。よろしくお願いたします。

私はつるかわ学園がまだ児童の入所施設だった当時、昭和五十四年に入職いたしました。地元の小学校（どんぐり学級）・中学校、養護学校に通う方が大半で（当時、過齡児と呼ばれた十八歳以上の方もいらつしやいました）、とてもかわいらしくて、元気一杯だったという印象があります。

小学校の登校の時には泊り明けの職員が送って行っていたのですが、ある日、その送りの最中に一人の男の子が「鬼ごっこ」モードに火を点けてしまい、追いかけるにかなりの時間がかかってしまい、小学校に着いた時には一日のエネルギーを使い果たして、へとへとになってしまったことを思い出します。でも、そんな出来事も、今ではいい思い出となっています。

そんな新任の時代から、すでに三十五年という歳月が過ぎてしまいました。つるかわ学園も平成六年に成人施設へと衣替えをし、現在は平均年齢が四十三歳ほどになっています。高齢化することにより、障害の

重度化も目立ち始めました。また、利用者の年齢が上がるといふことは、ご両親・ご家族の年齢が上がるといふことでもあります。今、日本全国の障害者施設で問題となっていることですが、「親亡き後」がこのつるかわ学園でも課題となってきています。利用者やご家族が安心して暮らして頂けるような、そんな方向性を持った施設になるよう努めたいと思います。

つるかわ学園での課題はその他にも数多くありますが、中でも差し迫った課題は、大規模修繕です。すでに、建設から二十年余りが過ぎ去り、見た目はまだきれいな状態が保たれているといっても、内部は大分ガタがきています。補助金を受けながら大規模修繕を行う予定ですが、是非とも皆様のお力を貸して頂きたいと思っております。

社会福祉法人改革、国から頂くお金の削減等、非常に難しい時代になってきていますが、利用者の安心、安全、楽しさを願う支援するといふ気持ちは不変だと思っております。これから、ご家族・職員等と力を合わせて進んでいきますので、ご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

オリエンテーション バーベキュー

東京都町田通勤寮 岩崎 龍



4月5日（日）に町田通勤寮にて毎年恒例の行事であるオリエンテーションとバーベキューが開かれました。

オリエンテーションは3月に入寮した新規の利用者と在寮者に向けて通勤寮のルールと生活する目的を説明する重要な行事です。

新規の利用者の方がルールや目的がはっきりとわからないのはもちろんですが、2年目以降の方は良くも悪くも緊張感が薄まり、生活に緩みが表れてくる傾向にあります。通勤寮は通過型の施設なのでここで一生過ごすわけではありませぬ。法人内のグループホームに移行する方、単身生活にチャレンジする方と進路は人それぞれ異なりますが、生活の基盤を作ることができなければ、自立することではできません。3時間の長丁場になりましたが、説明にしっかりと耳を傾ける姿が大変印象的でした。

オリエンテーションの後はおまちかねのバーベキューです。職員と利用者で野菜のカットやカレーの調理、バーベキュー用のコンロでの火起こしなど1時間程かけて準備しました。新規利用者の方も最初は表情が緊張していましたが、徐々に周囲とも打ち解け、楽しそうな顔で過ごし、無事バーベキューを終えました。

新年度の良いスタートが切れたと思います。高校を出てすぐに就職し、なおかつ、生活環境も変わり、戸惑いや慣れないことがあるのは当然です。これから楽しいことも辛い事も含め、利用者の方々にとって通勤寮での生活が良い経験になるようにと切に願っております。



開設から1年を迎えて

つるかわ学園相談支援センター
加藤真優

つるかわ学園相談支援センター
ところが開設し、丸1年が経過し
ようとしていきます。本来は福祉サー
ビス利用前から紹介させていただ
く事業ですが、昨年度は制度の後
を追いながら既に法人内のサービ
スを利用しての方に対し、支
援の在り方を考えさせていただ
いた、まさに駆け出しの一年とな
りました。事業運営にあたり、「ご理
ご協力をいただき改めて感謝申し
上げます。

この一年、各事業所の利用者の
方の生活をより良くする為に何が
出来るのかという視点で関わらせ
ていただき、感じたことが色々
ありました。変わらない生活が安
定を生んでいる場合と、生活状況
に応じ、新たな成長や挑戦をする
ことのできる契機を作る必要性。
限られた時間の中で、現実的かつ
希望ある自立生活のイメージをど
こまで作れるのか。長期的な希望、
夢を実現するために福祉サービス
の介入のしどころと限界は…。当
たり前ですが、各事業の役割によ
り、お一人お一人の希望を実現す
るために支援が出来ることと難し
いことがあります。その難しいこ
とに相談支援事業が介入していく

意義があるのだと感じています。

福祉サービス利用にあたり作成
を行う、「サービス等利用計画」の
等」とは、福祉サービス以外の
資源を指します。地域特性を踏ま
え、どのような社会資源があり、
その方のニーズを満たす為には何
が活用出来るのかを考える視点
が必要です。また、利用者の方を
中心とし、ニーズに対して支援を
する上で、既存の資源だけでは対
応できないこともあると思います。
既存の社会資源だけではなく、
フォーマル・インフォーマルなサ
ビスを含め、柔軟な発想から支
援のアイデアを考え出すことも必
要だと感じています。

2年目は、利用者の方やご家族、
各事業所と関係を築く中でいかに
ニーズを引き出せるかが問われる
のではないかと思います。ニーズ
に依る為のピースを増やしてい
く作業を進めながら、事業所の在
り方を追求して参りたいと思いま
す。



平成27年2月22日(日) 町内会との合同防災訓練を実施

災害対策委員会委員長 近藤 洋

午前は学園単独で地震を想定した避難訓練を行い、
午後は町内会と合同で火災を想定した避難訓練を
実施しました。

午前は避難訓練開始後、各フロア
で安全確保・待機をしているのと並
行して、会議室にて災害対策本部を
立ち上げ、そこを起点に情報伝達訓
練と各種調査(躯体・備品等)、炊
き出し訓練の実施を進めました。災
害対策本部の立ち上げを具体的に
行うのは初めてに近い状況で、進行マ
ニュアルを作成した中での実施では
ありましたが、災害時においては「情
報」の収集・伝達の大切さに改めて
気づかされました。

炊き出し訓練をはさみ、午後は
町内会の方々と協力し、園庭への
避難誘導訓練を実施しました。ス
ロープが利用できる利用者の方に
はスロープを活用した避難をして
頂きました。また、職員の避難誘
導訓練として、担架を用いた避難
誘導を行いました。避難誘導終了
後は消防団の方々と消火器、担
架の取り扱いについて指導して頂
きました。

いつ、どのような状況で災害が
おこるかは判らず、状況判断が難
しい利用者の方々の安全を確保す



る為、今後も災害対策メンバーを
中心に学園全体で災害時の適応力
を高めていけるよう、繰り返し訓
練を重ねることや、町内会などの
近隣住民の方々との協力関係の構
築、必要備品の整備などを進めて
いきたいと思えます。

また、利用者の重度・高齢化に
伴い、避難の手段についても、そ
れぞれ考え安全に避難できるよう
環境整備をしていきます。



2月1日(日)の午後、もくもくてんスタッフの大泉さん率いるあいほらカマーアンサンブルの演奏会が1F地域交流室で開催されました。今回で3回目を迎える演奏会に、大泉スタッフを含め5名の皆さんが来園されました。学園バンドや、先日のクリスマス会に来てもらったニコニコバンドのコンサートとは一味違った吹奏楽の演奏に、殆どの利用者さんが椅子に静かに座ったまま、演奏に聴き入っていました。また皆さんもカラオケなどで聴きなれているのか手拍子をしたり、知っている歌詞を口ずさんだりなどされていきました。「崖の上のポニョ」「津軽海峡冬景色」「川の流れる様に」「上を向いて歩こう」の4曲を演奏してもらいました。普段のカラオケの演奏とは一味違った吹奏楽での演奏は利用者の皆さんも新鮮に感じているようでした。2月というと、学園ではあまり行事の無い時期でもあり、大泉スタッフと事前に打ち合わせをして、そういったのんびりとした時期に、穏やかな音楽を利用者さんたち楽しんでもらいたいというコンセ



プトでの演奏会となりました。利用者さんだけでなく、多くのスタッフも楽しみにしている演奏会でもあり、来年度以降も、利用者さんたちに優雅な音色に浸る、ひと時を楽しんでもらえたらと思っています。



つるかわ学園 ホームページ

日常のようす、行事のお知らせ等がご覧になれます

アドレスはこちら!!

HP: tsurukawa-gakuen.com



内部研修報告

テーマ **食事(介助)**

摂食・口腔ケア主任 鳴原雅典

現在、学園では利用者の高齢化、重度化に伴い、食事の支援や歯磨きを含めた口腔ケアがますます重要になって来ています。そのためスタッフ一人一人が正しい知識を持ち、適切に支援できるよう定期的な研修を行っています。

今回は平成26年1月から行っている食事(介助)をテーマにした内部研修について報告します。研修の目的は、普段何気なく行っている食事支援について、改めてその重要性和基本的な介助技術を確認する事です。具体的には、「食事の適切な姿勢」や「スプーンの口への運び方」、「唾液の分泌を促す方法」、「食事動作の改善を促すリハビリ」について学習しています。直近の講習では、スタッフが目をつぶって介助をされたり、唇を閉じずにせんべいを食べたり、わざと姿勢を崩してみたりと、利用者の状態の疑似体験も行い、利用者の食事についてより実感を持って理解できるようにしています。毎回10人程度の少人数での研修の為、それぞれのスタッフの疑問や食事についての考え方など、貴重な意見を聞く良い機会となっています。今後も歯磨きの講習と合せ、定期的に研修の機会を持ち、より良い支援ができるようにしていきたいと思えます。

つるかわ学園を

支える会にご案内

「支える会」について

国家的財政困難と世情不安定の中にあつて、施設も苦しい状況に置かれています。私達は私達なりに苦しさの中にあつても福祉を支える者として努力を惜しまず頑張っています。今一步の力の支えをこうした形で求めるのは本当に心苦しいのですが、市民の皆様の小さな善意はやがて大きな力を生む礎となる事をお約束します。

どうか「つるかわ学園」を支える会にご入会し力を添えてくださいますようお願い申し上げます。

会費

「つるかわ学園を支える会」の会費は、一口年額二千円ですが、ひとり何口か入っていたくださることを歓迎、お願ひしております。

会員の方々には、毎年三回発行するつるかわ学園の機関誌「つるかわ」をお送りし、学園の様子を続けてご報告するとともに、この人達の幸せを願う者同志としての親交を深めます。

入会方法

入会して下さる方は、振込用紙を学園にご請求下さい。

振替口座番号

〇〇—〇〇—七—一九四〇二九
加入者
社会福祉法人 つるかわ学園